

## 第十三回 うつ病・自律神経失調症と顎関節症の歯のかみ合わせ

首の骨7つのうち一番上の骨(頸椎1番)は顎関節症側へ回轉變位を致します。但し、頭に打撲をうけた場合は顎関節症側と反対側へ回轉變位を起こす場合があります。このような状態になりますと体の調子はさらに不調を増します。

顎関節症及び頭蓋骨の捻れがさらにひどくなりますと首の一番上の骨がより一層、回轉變位を増します。

その次の二番目の首の骨は一番上の骨を元の状態に戻す為に逆回轉變位をおこします。

この逆回轉變位をおこしたのが自律神経失調症です。ところが一番上の首の骨と二番目の首の骨が同じ方向に回転した場合は自律神経失調症をさらに悪くした状態で、うつ状態を起こすといわれています。

うつ症状すべてではありませんが

1. 目まい
2. 頭痛
3. 大汗
4. 無気力
5. 胃が痛む
6. 細かい事をブツブツ言う
7. 時には耳鳴り

首の骨上から二番目までは頭蓋骨から脳幹が垂れ下がっております。死亡しますと脳幹は頭蓋骨内に戻ります(脳幹:人間が生きてゆく為に最低必要な呼吸・体温・生理的作用をつかさどるところです。針で少しのキズをつけるだけでも即死です。)

そしておしりの真ん中の骨である仙骨から背骨までの脊椎神経は首の骨の二番目で終わり、そこから脳幹とつながっています。背骨の異常も原因ですがここのつながりの異常を起こしますと原因不明の不定愁訴をおこします。

首の骨一番二番を正常に戻すには頭蓋骨及び体全体を正常に戻した状態ですぐに歯の咬み合せの高さのバランス(左右・前後・対角線)を決めることです。体の骨格の異常をとり除かないでやりますと神経伝達不良に正確な歯の咬み合せが出ない事になります。頭蓋骨、及び体全体のスィッチングをとり除くことにより歯を片側だけ故意に高くしますと頭が足迄すべての骨・内臓の悪いところが左右逆になるものです。人間の体は超精密で又神秘的です。

教科書では

自律神経は交感神経と副交感神経にわけられます。自律神経失調症は交感神経の過剰の病気です。うつ病は副交感神経の過剰の病気です。首の骨、背骨の異常の部位によって交感神経・副交感神経とに分けられます。そしてその異常部位が過剰に反応したのがうつ病・自律神経失調症

の病気をおこすのです。ほとんどの体中の骨又筋肉・内臓も変化をおこします。

体が捻れ、傾いた状態で歯だけをきっちり咬み合せをつくってしまいますと捻れた体、傾いた体を元に戻そうと思っても誤った歯の高さが障害になって元の正常な体の状態に戻れないということになります。

頭蓋骨に神経の90%おしりの真ん中の骨の仙骨に10%があるとされています。故に顎関節症を治すには頭蓋骨を始め体全体の骨格を治しながら、歯の咬み合せ、マウスピースの調整をしなければなりません。(顎関節症は頭蓋骨調整だけで治るのは若い人です。歯をいじっていると必ず歯の咬み合せの調整が必要です)

顎関節症が治せばあらゆる病気が治ると言われる位です。

又、顎関節症をおこしていると頭の形が左右・前後を両手で触って違う場合一生涯において大病しなければよいが・・・と言われる位です。

顎関節症を治すとすべてとは申し上げませんが難病・癌・肝炎にしても病院での検査にはひっかからない事になります。免疫力、治癒力がつくものと思われれます。

鼻がつまるのは顎関節症側です。花粉症はアレルギーですが原因があるのは顎関節症側の・・・？にあります。

うつ病、自律神経失調症の治療は主に対症療法です。症状を抑えるのが主です。薬の副作用での症状が出て薬の服用がやめる事ができなくなるともいわれています。長期の薬を服用しますと麻薬のように薬なしでは生活出来ないという結果になりやすいです。薬の服用をやめる勇気が必要です。

※思いつくまま書きましたので、乱丁などあるかもしれません。ご了承お願い致します。